

一関スタイルで検討開始



上 1月19日の第2回委員会で、10のグループに分かれ協議した委員
左 1月13日の全体会で住民「視点」から住民「起点」での取り組みにと講話を行った勝部市長



一関スタイルで協働推進アクションプラン(行動計画)を策定しようと、協働推進アクションプラン検討委員会(三浦幹夫委員長、委員65人)が具体的な検討を始めました。

市は、住みよいまちをつくるため市民の皆さんが主体的に取り組んでいただくことを目標に、まちづくりの手法を「協働」と位置付け、アクションプランの策

定を同委員会に委ねています。委員は昨年行った準備会議のメンバーや団体推薦者、公募した市民、市職員で構成されています。

1月13日の第1回策定会議では、一関スタイルの協働の3本柱を次の三つにすることを確認しました。

1 話し合いを基礎とした協働を身に付けること

2 地域の良さを残す協働を広げること

3 協働の仕方3カ条▼行政と市民・NPOが一緒に汗をかく▼市民とNPOとの協働▼行政への市民の参画

1月中に行われた3回の全体会では▼意見は15人の素案検討部会で整理する▼具体的な内容は時間をかけて詰めるーなどを協議。グループ討議を基に、▼協働の定義▼共通認識を持つ方策▼誰のための協働なのか▼事例研究をすることーなどについて話し合いを進めています。

具体的な議論が始まった同プラン。「協働」とはどんなことなのか、分かりにくい用語については「用語集」として作成する方向で進められています。

三浦委員長(室根第12区自治会長)は「市民、行政の各層の委員がさまざまな角度から市民と行政の役割や連携のあり方、進むべき方向、事業のあり方など活発に協議を進めている。委員以外の多くの皆さんにも意見や提言をいただきたいほか、この協議に十分な関心を寄せてもらいたい」と意欲を語っています。

◎問い合わせ先
本庁協働推進課 ☎86771

建設業協会千厩支部と締結



上 固く握手を交わす
右から勝部市長、橋本県建設業協会千厩支部長、島山藤沢町長
右 協定書に調印する各代表者

市および藤沢町と(社)岩手県建設業協会千厩支部(橋本健支部長)は2月1日、「災害時における応急対策等の活動に関する協定」を締結しました。

協定は、自然災害時などに同支部の区域となっている本市大東、千厩、東山、室根、川崎の各町と藤沢町の地域で、同支部が自発的、無報酬で市町が管理する公共土木施設および農林土木施

設の被災情報の収集や応急復旧工事などの対応を行うために必要な事項を定めたものです。

市役所千厩支所で行われた調印式で、協定書に調印後、勝部市長は「建設業協会には、調印の有無にかかわらずこれまででもご理解ご協力をいただき感謝している。市内西部地区に続き、今回東地区で調印することができ、藤沢町も含めて地域災害対策の基盤

が盤石になった。さらに連携を深めていきたい」とあいさつ。

島山藤沢町長と橋本支部長は「建設業協会には地域の安全のために協力いただいている。現在の厳しい環境の中、このような申し出をいただき改めて感謝する。協会として災害時に機動的に対応できることで、安全安心な地域づくりに協力していきたい」とそれぞれ述べました。

協定は、豪雨、洪水、地震などの自然災害時に市町が管理する道路、河川、公園、下水道、都市施設、森林土木施設、土地改良などの施設の被災情報の収集、連絡と応急復旧工事などの対応について定めたもの。▼被災情報の収集および連絡▼障害物除去などの人員の確保、重機・資機材などの調達▼応急復旧工事の対応ーを同支部がボランティアで行うという内容です。

同支部は市東部および藤沢町の建設業37社で構成。平成9年に県と同様の協定を結んでい

石堂構井田線待望の開通



上 新しい市道を関係者や地域住民が歩き初め、待望の路線の開通を祝いました
左 石堂構井田線位置図



千厩町内の国道284号と国道456号を結ぶ市道「石堂構井田線」が2月1日、開通しました。開通式と開通祝賀会が地元実行委員会主催で催され、待望の路線開通を祝いました。

開通式は市道終点の千厩町構井田地内の国道456号交差点付近で行われ、関係者や地域住民ら約200人が出席。実行委員長である鈴木美津男千厩町第

2・3区自治会長によるあいさつの後、勝部市長が道路の供用開始を高らかに宣言しました。関係者らによるテープカットの後、パトカーを先導に、真新しい道路の歩き初めを行いました。

引き続き行われた開通祝賀会の席上で、勝部市長は「この市道は、千厩地域で東西を走る国道284号と南北を走る国道456号を結ぶ交通の要所。この市

道の開通により、これまで市街地で渋滞していた車の流れもスムーズになることが期待される。地域の皆さんに愛される道路になることを期待する」とあいさつ。

菅原市議会議長らが祝辞を述べたほか、八幡太鼓などのアトラクションが華やかに祝賀ムードを盛り上げました。

新しい道路を歩いた千厩町内の女性は「朝いつも渋滞していたところ。子供たちの通学が、便利で安全になっていいですね」と喜びを語っていました。

石堂構井田線は、千厩の市街地を通る国道456号が交通量

の増大や車両の大型化により朝夕交通渋滞が発生していることから、市街地を経由しないで国道284号と接続するための路線として整備。平成16年度に着手し、総延長370m、幅員15m、2車線の両側に歩道を備えています。総事業費は5億5600万円。計画交通量は一日7884台を見込んでいます。

今後は交通渋滞の緩和とともに、物流の効率化、広域連携の強化、千厩病院へのアクセス改善が図られることで地域経済・産業の発展と福祉・医療の改善が期待されます。

宝くじの助成活用し整備



東山郷太鼓組(芦玲子代表)は、子供から大人まで太鼓を通じて交流を深めています。

今回、宝くじの助成を受けて、太鼓2台、当り鉦、衣装を購入しました。

芦代表は、「今まで以上に地域文化の継承や、イベント活動などで地域の人たちとの交流促進を図っていききたい」と喜びを語りました。